

## 巻頭言

## 平成20年度 事業報告総会を終えて

(社)大阪府作業療法士会 会長 長辻 永喜

(大阪河崎リハビリテーション大学)



さる5月30日(土)阿倍野市民学習センターにおきまして無事に平成20年度事業報告総会を滞りなく終了させていただきました。新型インフルエンザの流行が世間を騒がせている中での総会開催は大きな冒険でした。委任状の回収が捗らないことと総会参加者が果たしてどれだけ見込めるかが不透明であり、一方で新型インフルエンザ流行の中で集会を行うことへの是非が問われかねない状況でした。しかし、季節性インフルエンザと同様の対応をとるようにとの方針が打ち出されましたので、予定通りの開催とさせていただきます。

昨年度後半は会費収入が大幅に落ち込む中で超緊縮補正予算で臨み、会費納入の緊急キャンペーンを実施しました。何とか役員の会費徴収推進活動を通して、例年通りの会費を納めていただくことができました。しかし昨年以前の未納だけでなく、平成20年度も約130名の未納が生じました。我々OT自身の職能を守るのは自分たちでしかないということをもっと真摯に考えていただき会費納入のご協力を是非お願いいたします。組織があって初めて出来る活動もあることを十分に理解いただきたいと思います。一方で、予算執行もより厳密に行い、皆様の会費を有効に活用させていただくことを申し添えます。

今年度の大きな活動の一つにOTの必要性を理解してもらい、認知度を高め、公益性を広く国民・府民に広めるべく新パンフレットを作成いたしました。府下の施設を紹介しながら各分野の中身を理解いただけるように内容的にも視覚的にもアピールできるものができあがりました。非常に好評をいただき、今後も幅広く活用してゆきたいと考えています。

さらに昨年に引き続きエリア活動(ブロック活動の名称を変更)の活性化を図りました。身近なところでいつでも連携できるOTネットワークの構築を願っています。事業部学術活動として各種研修会・公益事業を実施しました。特に発達部門においては他団体、当事者団体、学校支援グループとの連携の下にOTの必要性を広めるとともに協力体制を築き上げてきました。学術部研究会活動として会員からの公募による7つの研究会を実

施しました。そのうち3つは次年度も継続となりました。保険部は毎年変動の激しい診療報酬について逐次情報を集め会員の皆様に役立てるように情報提供に心がけました。教育部は現職者共通・選択研修を開催いたしました。

先だっの総会で承認をいただきました平成22年度の第26回大阪府作業療法学会長が承認されました。森之宮病院の小室幸芳先生です。ポバース法に基づく長い臨床経験だけでなく事務方のトップとして長年大阪府作業療法士会活動にも貢献をいただいております。多角的な側面から大阪学会を切り盛りしていただけることと期待しております。

そして本部協会から数年先の全国学会の開催に対する打診が来ております。役員一同一丸となって前向きに取り組んでゆく所存です。

大阪府作業療法士会は、作業療法士自身が積極的に自己の資質を高め、社会的な役割を果たしていく団体です。会員ひとりひとりの意識の向上と大阪府士会活動への積極的参加が不可欠です。今後とも早期の会費の納入をはじめとして各種の大阪府作業療法士会活動へのご理解、ご協力を賜りますように重ねてお願い申し上げます。

